

月	栽培管理
1 2	<p>【荒剪定】 荒剪定する場合、前年に伸びた枝を 30 %程度残して切り戻す。</p> <p>【凍霜害及び主幹日焼け対策】(1月～4月上旬) 水が揚がりはじめた時、冷気が当たると芽や幹を痛める。特に主幹部分の被害影響が大きいため防寒する。 主枝をワラで覆ったり、ホワイトンパウダーの 5～10 倍液を塗布する。</p> <p>【土寄せ・客土】 水田での栽培は過湿になりやすいため、土寄せをして畦を作る。 栽培年数が長くなると樹勢が低下してくるので、客土をおこなう。</p>
3	<p>【本剪定】(3月中下旬) 冬場に切った残りの横芽を 1～2 芽残して切り詰める。 芽数が多いと夏場に日照不足による品質低下や病虫害の発生を招く。</p> <p>【春肥施用】(3月) 大地のめぐみ 100kg/10a (植付け 2～3 年は不要の場合があり、それ以降は樹勢により減肥する。) 早すぎると初期生育が良くなりすぎて、節間が伸び収量の減少につながる事があるので注意する。</p>
4	<p>【敷きわら】(4月下旬～5月上旬) 降雨の泥跳ねによる病害防止と梅雨明け後の乾燥防止を目的に、主枝の下に幅 1 m前後で敷く。</p>
5 6 7	<p>【芽かき】(5月中旬) 手で取れる時期に芽数を整理し、結果枝の間隔を 40～50 %程度にする。間隔が狭すぎると着色不良の原因となる。 残す芽は基部に近い横芽にするが、樹勢や芽の勢いによっては上芽や下芽を利用する。 植付け一年目は芽かきをしない。この芽が将来の結果枝のもとになる。</p> <p>【誘引】 新葉が 10 枚程度展葉してから順次誘引する。結果枝の間隔は 40～50 %にし、狭い場合は整理する。</p> <p>【反射シートの敷設】 反射シートは着色促進だけでなくアザミウマの被害を抑制する効果もあるので、5月下旬に敷設する。</p> <p>【土壌管理】 いちじくの根は乾燥・過湿の両方に弱く、この時期の根の伸長具合が収量に大きく影響するので、梅雨期は排水し、梅雨明け後に乾燥が続く場合は灌水を 10 日に一回程度行う。 ただし、株枯病が発生している園では病気が蔓延する恐れがあるため、掛け流し灌水は行わない。</p> <p>【追肥】(6月～7月) 生育状況に応じて、NK化成 2 号を 20～40kg/10 a を施用する。 ※生育が順調な場合は施用しない。</p>
8 9 10 11	<p>【追肥】(8月～11月) 樹勢回復と貯蔵養分の増加のために、NK化成 2 号を 20kg/10 a を施用する。</p> <p>【摘芯】 結果枝を 23 節程度の所で摘んでおく。摘芯後は、わき芽の発生が増えるため適宜芽かきする。</p> <p>【収穫】 果皮色が濃くなり果実が柔らかくなりはじめた頃が収穫適期になる。 収穫は果実が温まらないように早朝に収穫し、傷を付けないように丁寧に扱う。</p> <p>【秋雨対策】 台風や長雨が続けると品質が著しく低下するので、雨よけ資材等を活用する。</p>
12	<p>【土壌改良】 堆肥 2000kg/10 a 苦土石灰 200kg/10 a 酸性土壌を是正し、有機物を投入する。 イチジクはカンキツ等と異なり中性の土壌が生育に適している。</p> <p>【園内管理】 枯れ葉は翌年の病害の伝染源になるので、園外廃棄する。</p>